

## 2021（令和3）年度岐朋会行事予定

### I 第31回岐朋会総会

文書総会（5月）

### II 第29回岐阜県原爆死没者慰霊祭

9月17日（金）12：00～14：00 十六プラザ

### III 岐朋会主催「原爆と人間」展

岐阜県会場	7月5日（月）～11日（日）OKBふれあい会館
岐阜市会場	7月5日（月）～11日（日）岐阜市役所ロビー
大垣会場	7月24日（土）～25日（日）大垣市スイトピアセンター文化会館
多治見会場	7月28日（水）～8月26日（木）やまかまなびパーク
岐阜市会場	8月3日（火）～27（金）（岐阜大学図書館入り口ホール）
関ヶ原会場	8月6日（金）、10日（火）関ヶ原町役場
垂井会場	8月11日（水）～15日（日）おもてなし処垂井庵
可児会場	8月11日（水）～16日（月）可児市広見公民館
岐阜市会場	9月2日（水）～8日（水）スーパー・マーサ21
羽島会場	（未定、2022年1月開催を目指す）

### IV 生活・健康相談会

11月 日本被団協東海北陸ブロック相談事業講習会（未定）  
2022年2月 岐朋会生活・健康相談会（日時、場所未定）

### V 追悼平和祈念式典等参加

8月6、9日 広島、長崎追悼平和祈念式典  
8月15日 全国戦没者追悼式典（今年度参加見合わせ）

### VI 日本被団協総会、全国都道府県代表者会議

文書総会 第66回日本被団協総会  
10月13～14日（水、木）全国都道府県代表者会議、中央行動

### VII その他

2021年度中 『被爆者からあなたにーいま伝えたいこと』学習・普及活動  
6月11～16日 平和行進（岐阜県ピースアクション連絡会）  
8月1日（日）「ヒロシマ原爆の話を聴く会」（多治見原爆展会場）  
8月5日（木）県民の会連絡会（被爆者の願いを継承する岐阜県民の会）  
8月18日（す）被爆ピアノ・ラストコンサート（岐阜県被爆二世の会）  
8月28日（土）こども平和ひろば（こども平和ひろば実行委員会）  
・日本被団協提案「すべての国と日本政府に核兵器禁止条約の署名、批准を求める」署名運動の推進（「県民の会」の活動と共同して）  
・他団体主催の原爆展への協力（パネルの説明、被爆証言など）

# 被爆者の願いを継承する岐阜県民の会

「ヒバクシャ国際署名をすすめる岐阜県民の会」～「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会へ」

2017年3月24日、岐阜県原爆被爆者の会（岐朋会）の呼びかけに応じ、全岐阜県生活協同組合連合会や原水爆禁止運動の団体などが呼応して、「ヒバクシャ国際署名」をすすめる岐阜県民の会（以後県民の会）が結成された。

ヒバクシャ国際署名を県内 1/2（100 万筆）を目標として、各団体が県内各地で署名を呼びかけた。総会を兼ねて、講演会を毎年実施。結成のつどいでは「被爆者の願いと国際署名」をテーマに、日本被団協事務局長（当時）田中熙巳氏が記念講演を行なった。2018 年は被団協の藤森俊希さん、2019 年は長崎大学の中村桂子さん、2020 年は「ピースウェーブ2020 in ぎふ」を開催。コロナの影響もあり、人数制限をして武蔵大学生の作成したDVD「声の世界を動かした」を観賞、制作者の工藤さんにリモート参加して頂いた。

月1回の事務局会議（40回）と3ヶ月毎の推進連絡会議（12回）で、情報を共有し次の活動に繋げた。

2017年11月より月1回の街頭署名を实地、広く市民に呼びかけ、岐朋会の方も協力、道行く人々に呼びかけた。2019年には県内の賛同した首長の写真入りポスターを作成、各自治体に配布して署名を呼びかけた。

## 【特に紹介したい活動】

- 岐阜県で15万筆を越える署名を集めることができた。首長の署名も39名集まった。
- 通年の平和活動が取り組めた。・・・それまでは夏中心型
- 岐阜の著名人と一緒に活動に取り組めた。
- 保険医協会とつながりができた。
- 推進連絡会は、岐朋会・生協・原水協（平和委員会）・保険医協会・新婦人・労働組合等幅広いメンバーが集まった。
- 毎月事務局会議を開き、きめ細やかな活動に取り組めた。
- コロナで一時中断したが、2017年11月より月1回の街頭署名に継続して取り組み3000筆の署名を集めた。
- 木戸さんから中央の情報を聞き、全国の活動や海外の活動の情報を参考に活動ができた。
- 首長署名のポスターとチラシを作成することができた。
- 議員署名に取り組めた。
- 岐朋会のメンバーが元気になった。
- 関の平和委員会の素晴らしい活動を知ることができた。



柳ヶ瀬高島屋前で街頭署名



岐阜県首長ポスター

ヒバクシャ国際署名が終わり、せっかく県内の団体が繋がり活動ができたのをこれで解散するのを惜しむ声もあった。被爆者の高齢化と、「あと10年たったら被爆者はいなくなる。」という木戸さんの言葉に押され「被爆体験の継承」と「岐朋会の活動継続」を目的として、2020年12月16日に「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会」として、再結成し活動を開始した。

会の目的は、「被爆体験を継承し核廃絶をめざす」。

- 当面は、被爆者の証言撮りを中心に活動する。ただし、一つの証言は5分くらいにまとめ、可能な被爆者には複数回証言をしてもらう。証言の内容は、被爆体験に限らず、被爆者の想いを語ってもらえばよい。5年で50名ほどを目標とする。将来的には、学校で平和教育に活用してもらいたい。
- 全国的に平和への取り組む運動がある場合の、受け皿になれないか。
- 事務局会議と運営会議を、定期的で開催する。（開催頻度は別途検討）年に一度のイベントも組めないか等。



# “ノーモア・ヒバクシャ” 継承の拠点を各地に

2021 年 12 月 11 日 岐阜：岐朋会・今井雅

巳

## ☆ 継承の拠点は < 記念館・資料室 > 創りから ☆

- ・被団協・岐朋会の活動を継承するとき、どうしても必要なモノは、活動拠点となる記念館・資料室。
- ・活動拠点があって、初めて活動を継承する若者？が育ってくる。
- ・組織を作っても、学習する場、話し合う場＝継承の拠点がなければ組織は消滅する。

◎**先行事例①** 「中国帰還者連絡会（中帰連）」解散：「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」結成 20 年の軌跡

### ・「中国帰還者連絡会（中帰連）」とは？

1945 年敗戦後、シベリア抑留 5 年。中国撫順・太原両戦犯管理所に 6 年収監されたのち、1956 年瀋陽特別軍事法廷で 45 名のみ起訴。1017 名は起訴免除・即日釈放。赦されて帰国した約 1000 名が 1957 年に創設した組織。

「反戦平和・日中友好」を旗印に掲げ、加害証言、反戦図書・季刊『中帰連』発行など、45 年間活動を続けた。

2002 年 4 月 20 日、会員平均年齢 83 歳、会員数 300 名を割り、已むを得ず解散。

\* 山陰支部は解散せず、会員消滅まで続ける。

### ・「撫順の奇蹟を受け継ぐ会」とは？

2002 年 4 月 21 日、「中国帰還者連絡会（中帰連）」解散の翌日、全国からインターネットにより集まった約 300 名の孫世代の若者により組織された。中帰連の活動と理念を受け継ぐことを目標に、東京本部・全国 10 支部を立ち上げた。立上の中心となったインターネットで集った若者の多くは数年で活動から遠ざかり、子ども世代が活動を続けてきたが 20 年を経過・高齢化し、受け継ぐ会を受け継ぐ人々の参加を求めている。

解散時に 300 名近くいた元中帰連会員は、2021 年現在 5 名（99 歳～101 歳）の生存が確認できるのみ。証言集会や新たな反戦加害図書の発行も難しく、コロナ禍により、多くの支部が活動休止。解散した支部もある。

◎**先行事例②** 「中帰連平和記念館」の設立と 15 周年

## ・「中帰連平和記念館」とは？

2006年11月3日開館。中帰連の貴重な資料・史料や蔵書の散逸を避けるため、受け継ぐ会代表：仁木ふみ子さん宅に資料集積。入りきらなくなった資料を隣の農機具倉庫に預ける。その倉庫と土地を1500万円で購入。購入資金は、解散時中帰連副会長であった大河原孝一さんが全国行脚して、元会員から集めてくださった浄財による。

蔵書5万冊、映像資料約1000本、貴重文献、写真資料、実物資料を収めて「CUKIREN PEACE MUSEUM」として、受け継ぐ活動の拠点となっている。研究者、学習者、マスコミ、新聞社、テレビ局などに資料・史料提供し、学習会、研究会、講演会などを行っている。2016年秋には10周年記念集会を実施。「中帰連に学ぶ会」「供述書を読む会」など継続的に学習会を続けている。

2021年11月21日、15周年記念集会を挙げる。

**中帰連平和記念館** 埼玉県川越市笠幡1948-6 電話049-236-4711 開館日：水・

土・日



記念館エントランス



閲覧室・加害展示



事務室・貴重図書



記念館外観（元農機具倉庫）



閲覧室にて学習会



戦争加害特別展示

### ◎岐朋会の取り組み : 現在進行形

- ・「ヒバクシャ国際署名をすすめる岐阜県民の会」が「被爆者の願いを継承する岐阜県民の会」結成!!
- ・被爆者からの資料収集、証言映像記録
- ・収集した資料の整理・保存
- ・記念館・資料室の創設

加田弘子会長自宅の倉庫に、記念館・資料室の創設を計画中♡